

令和6年度 第2回碧南市環境審議会 会議録

日 時 令和7年3月31日（月）午後1時30分～午後2時00分

場 所 碧南市役所 7階 議員大会議室

出席者 長田 和徳、長田 和久、岡本 耕也、角谷 信二、黒田 昌司、齋藤 英延、
片伯部 裕樹、神谷 昌明、稲生 貴弘、遠山 隆夫、神谷 葉子、竹原 幸子、
渡邊 省吾、鈴木 君子、増田 元保、高山 芽衣

欠席者 鶴田 光久、長田 一希、磯貝 政男、谷澤 安彦 （20名中16名出席）

事務局 生田 和重、中川 知之、澤田 貫、鈴木 章宏、野澤 武司

傍聴者 なし

1 あいさつ

(1) 市長あいさつ

(2) 会長あいさつ

2 議 題

(1) 今後の廃棄物処理施設のあり方に関する高浜市との協議結果について（報告）

令和6年10月4日に高浜市に対し、両市が目指す廃棄物処理施設のあり方についての協議を申し入れ、一部について進展があったので、協議の内容、検討結果及び今後の予定を報告する。

ア クリーンセンター衣浦備構想（改定版）（以下、「整備構想」という。）に掲げる廃棄物処理方式の体制案の決定について

整備構想に掲げる体制案の検討については、再延命化、新設、外部処理の3つの体制案で比較することとし、①廃棄物処理責任の継続性、②経済性（イニシャルコスト）、③経済性（ランニングコスト）、④環境への配慮、⑤広域化への対応の5項目を評価項目とし、両市で検討した。各項目を点数化した。その結果、再延命化は11点、新設は17点、県外での外部処理は15点という結果になった。懸念される事項として経済性及び広域化への対応があるものの、現在の両市の廃棄物処理を安

定的かつ継続的に実施するための体制案として、新設案を採用することとした。

イ 新施設に最も適している箇所について

最も適している箇所の条件として、①概ね3ヘクタール以上、②地震又は大雨によるハザードを考慮し、碧南市から4箇所、高浜市から3箇所、合計7箇所の土地を検討対象として抽出し、廃棄物処理施設の設計マニュアルに基づき、1次選定及び2次選定を実施した。

一次選定では、法令等の制限や災害に対する対応、環境配慮に基づく地理的条件から総合的に考慮し、碧南市から2箇所、高浜市から2箇所、合計4か所を立地可能性の適地とした。

二次選定では、評価結果の点数化を実施し、各抽出地の総合評価を数値化した。また、評点結果以外の留意事項についても検討した。

二次選定による評点及び評点以外の留意事項を総合的に判断し、両市としての廃棄物処理施設の新設に最も適している箇所を2号地多目的グラウンドとした。

ウ 今後の予定

2号地多目的グラウンドは県が所有していることから、両市において新施設の設置の可能性について協議を進めていくことになる。

次に、高浜市と「新施設の将来的な運営方針を決定」をするため、廃棄物処理方式等検討委員会の開催及び検討調査業務を実施し、全国で採用されている廃棄物処理方法の比較検討を令和7年度に実施していく。「公設なのか、民設なのか」といった運営主体や、「産業廃棄物の混合処理の可否」、「単純焼却なのか、メタンガス化なのか、トンネルコンポストなのか」といった廃棄物処理方式について、この検討委員会で、専門家のご意見もうかがう中で、検討していく。

質疑応答

報告内容について特に質疑はなし。